

2025年7月22日

第3回たまむら映画祭企画書

たまむら映画祭実行委員会

代表 土田文月

私たちは、20年前から玉村町で映像文化を普及する活動をしてきました。具体的には「自主企画上映会」として2004年～2011年までに計6回の映画上映会を開催しました。また、それ以降もフィルムコミッション、まち映画（『漂泊』）制作の活動を重ねてきました。そして、それらの活動の経験をふまえて玉村町の文化・芸術を盛り上げる一環として2023年から「たまむら映画祭」を開催しました。

第3回開催において、今年は戦後80年の節目として「戦争と平和」「過去と未来」をテーマに私たちがこれからいかに生きていくべきかを問う優れた4作品を選定しました。前2回の「玉村町およびその周辺に関係する作品」というテーマから離れますが、これら作品で描かれていることは決して他所事ではなく、いまここにある私たちの「絶望と希望」が映し出されているはずです。各作品の内容は以下の通りです。

『小学校 それは小さな社会』（2023年）山崎エマ監督

日本の公立小学校に通う1年生と6年生の学校生活を春夏秋冬にわたって描いたドキュメンタリー。イギリス人の父と日本人の母を持つ山崎エマ監督が、公立小学校で150日のべ4000時間にわたる長期取材を実施。様々な役割を担うことで集団生活における協調性を身につけていく子供たちの姿を映し出す。またコロナ禍で学校行事の実施に悩み議論を重ねる教師たちの姿も映している。教育大国フィンランドでは異例のロングランヒットとなるなど、海外でも注目された。

『福田村事件』（2023年）森達也監督

1923年9月6日関東大震災直後に起きた行商団15人が虐殺された事件を映画化。社会派ドキュメンタリーを手掛けてきた森達也の劇映画初監督作品。同様の事件は関東各地域でも起こった（群馬県では藤岡事件）。また群馬県では近年そのような悲惨な歴史的記憶を消去させる「群馬の森・追悼碑撤去」問題が起きている。さらに昨今「日本人ファースト」と称した排外主義が横溢している。今年戦後80年（阪神淡路大震災・オウム事件から30年）が経過してこのような作品を通して改めて人権・差別について考えたい。

『ひめゆり』（2007年）柴田昌平監督

ひめゆり学徒の生存者22人の証言を13年にわたって映像で記録した貴重なドキュメンタリー作品。沖縄戦の中で自分が生き残り、家族・友達が死んでいったことの不条理、

戦争の中で生きること、その絶望的な日々が彼女たちの遺影が並ぶ展示室でよみがえる。ロシア・ウクライナ戦争、イスラエルによるガザのジュノサイドが勃発する現在、これは決して過去の出来事ではない。さらに日本でも歴史を改ざんして「戦争のできる国づくり」を推進する政治家が跋扈する現在、真に戦争と平和について考えたい。

『侍タイムスリッパー』（2024年）安田淳一監督

幕末の会津藩士が現代の時代劇京都撮影所にタイムスリップしてやってきた。江戸幕府が消滅したことを知った彼は、一度は死を覚悟したものの周囲の優しい人々に助けられて撮影所の「斬られ役」として生きていくことを決意する。自主制作映画でありながら、作品の素晴らしさで火が付きシネコン上映されロングランヒットした話題作。脚本・撮影・編集・監督・制作の一人五役を安田監督が手がけている。SF・時代劇・コメディの体裁であるが、人の生きざまを真摯に問う作品となっている。

スケジュール

9月6日（土）

『小学校それは小さな社会』 10:00～11:39

ゲストトーク近藤智（玉村町学校教育課）

11:40～12:00

『福田村事件』 13:30～15:37

ゲストトーク佐伯俊道（脚本家）・金井美樹（俳優）

15:40～16:10

9月7日（日）

『ひめゆり』 10:00～12:10

ゲストトーク柴田昌平（監督）

12:10～12:30

『侍タイムスリッパー』 13:20～15:31

ゲストトーク安田淳一（監督）

15:35～16:05

会場：玉村町文化センター小ホール（264席）

協力：たかさきコミュニティシネマ

玉村町文化振興財団

後援：玉村町

チケット1作品1,000円

販売先：玉村町文化センター窓口 シネマテークたかさき